

R16c **SDSS データを用いた箱型銀河・棒渦巻銀河カタログの作成と統計的研究**

吉野 彰 (宇宙航空研究開発機構), 山内千里 (みさと天文台, 宇宙航空研究開発機構, 和歌山大学)

我々は近傍銀河中の箱型・ピーナツ型構造と棒構造の存在比率を統計的に研究することを目的に, SDSS から  $r$  バンドで 17 等級より明るい約 1700 個のエッジオン銀河と約 2600 個のフェイスオン銀河を選び, それらの表面輝度を解析した. 今回その結果をカタログにまとめたので報告する. 本講演は 2013 年春季年会 R25c の続報である.

カタログは以下の内容を含んでいる.  $g, r, i$  の 3 バンドについて, SDSS から引用された ID, RA, DEC, redshift, 我々の解析による Sersic パルジと指数法則ディスクからなる 2 次元表面輝度モデルのフィット結果 (7 パラメータ), 目測による形態分類, B/T を元にしたハッブルタイプ, PGC カタログとのマッチング結果.

我々は本講演でそのカタログを元に箱型構造と棒構造の存在比, ハッブルタイプとの相関や色等級関係などについて統計的に調査した結果を報告し, それを元に銀河の形態と進化について考察する予定である. 本カタログは CDS (<http://cds.u-strasbg.fr/>) から取得可能である.